

未来へ、つなぐ。

ITで生み出そう、新たな価値を。

JBグループを ご存知ですか？

Question. 1

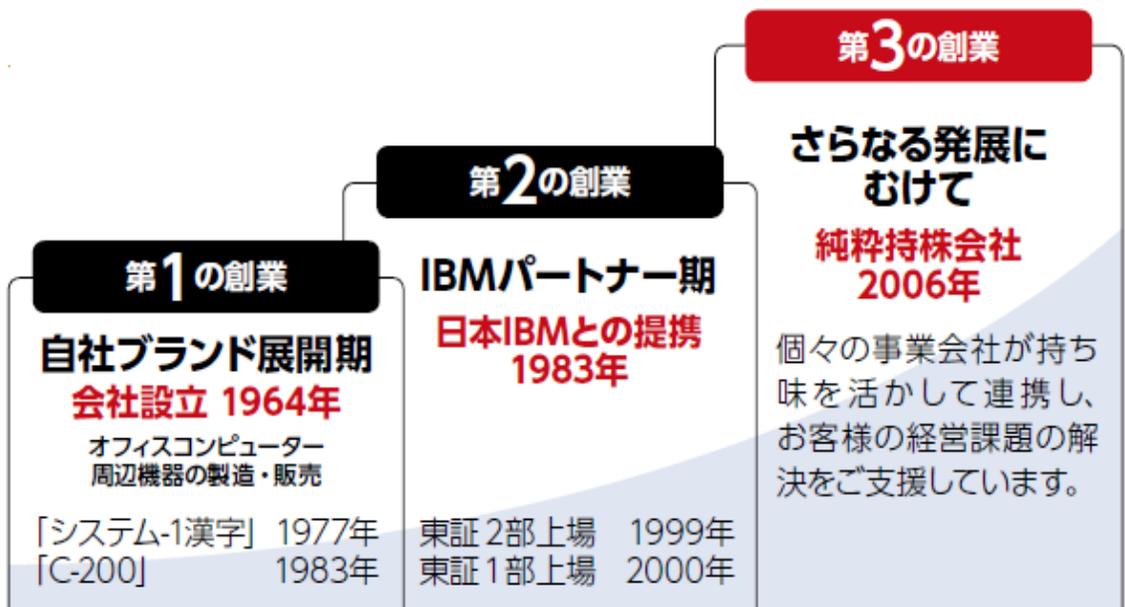
JBグループの歩みは？

1964年4月に日本ビジネスコンピューター（Japan Business Computer）株式会社として設立し、50年以上の実績があります。

今までの歩みをふりかえると、日本で初めての漢字処理を可能とした「JBCシステム-1漢字」等のオフィスコンピューターの開発・製造・販売を行っていた「自社ブランド展開期」、日本IBMとの業務資本提携による「IBMパートナー期」があり、その間、2000年に東証一部に上場しました。2006年にはさらなる成長のため、純粋持株会社体制へと移行しました。

「未来へ、つなぐ。ITで生み出そう、新たな価値を。」をキーワードとして、グループ11社は日々進化を続けています。

2018年4月 創立54年



Question. 2

どんなグループを目指しているの？

今やITは、企業経営への役立ちのみならず、生活のあらゆる場面に利用され、社会になくてはならないものになってきています。

スマートデバイス、センサー、カメラ等、あらゆる“モノ”がインターネットにつながるIoT（Internet of Things）は、検討から実用化の段階へ。さらにAI（人工知能）、ロボットの活用等、生活やビジネスの様々な場面でデジタル化が進んでいます。

J Bグループは、クラウドをベースにIoTやAI等、新しい技術を活用してデジタル化を推進し、お客様や社会の問題解決を目指しています。

**社会、お客様、株主、社員と感動を共有し、
信頼されるグローバルなベストサービスカンパニーを目指します**

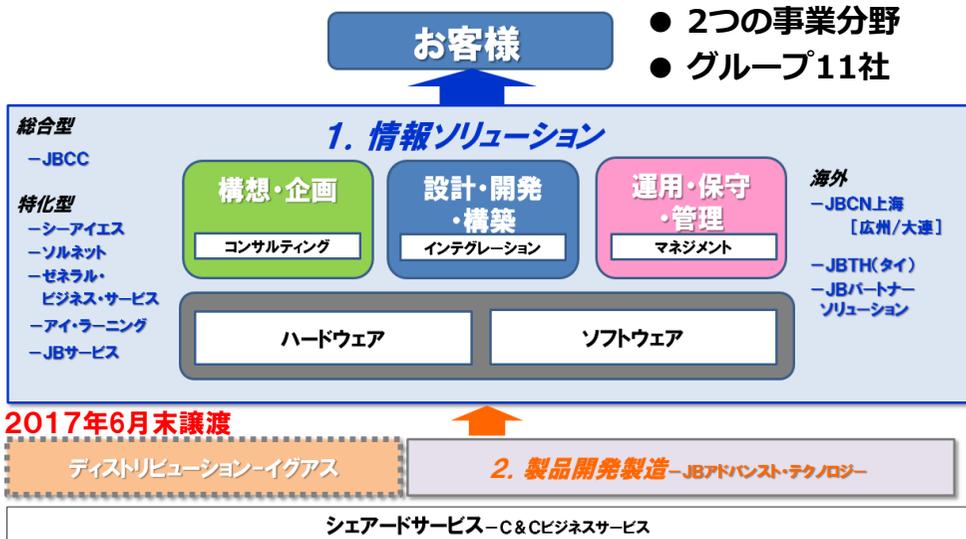


Question. 3

JBグループの事業会社は？

「情報ソリューション」、「製品開発製造」の事業分野でビジネスを展開しています。これらにグループの人事・総務・経理等のスタッフ業務をシェアード・サービスする1社を加えた、計11社がJBグループとして国内外で活動しています。

JBグループでは個々の事業会社が得意分野を活かして連携し、お客様に最適なサポート&サービスを行っています。



● 情報ソリューション

コンサルティング、システム開発・構築、運用保守まで、IT活用をトータルに支援

● 製品開発製造

JBグループ独自のソフトウェアの他、プリンター等の各種ハードウェアを開発提供

● シェアード・サービス

グループ内の業務の重複を避け、効率のよい運営を目指し、各種スタッフ業務を集約

ディストリビューション事業を担当するイグアスの株式譲渡について

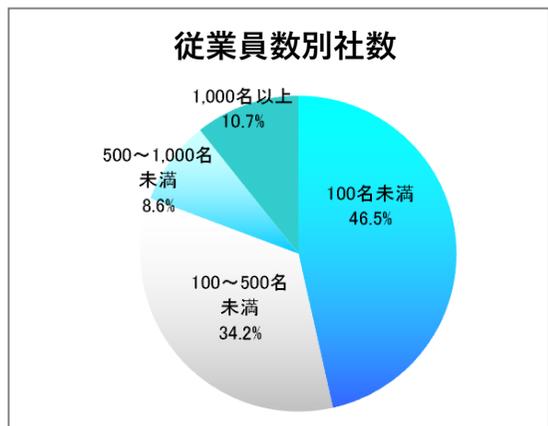
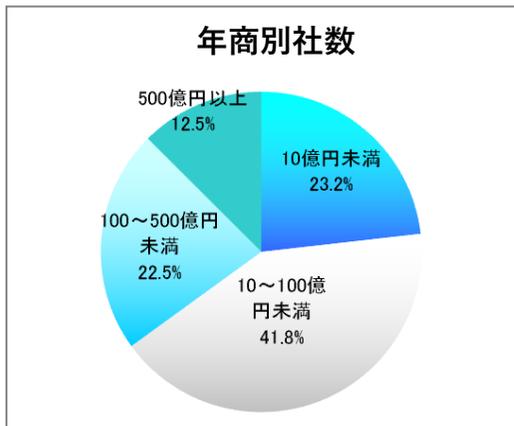
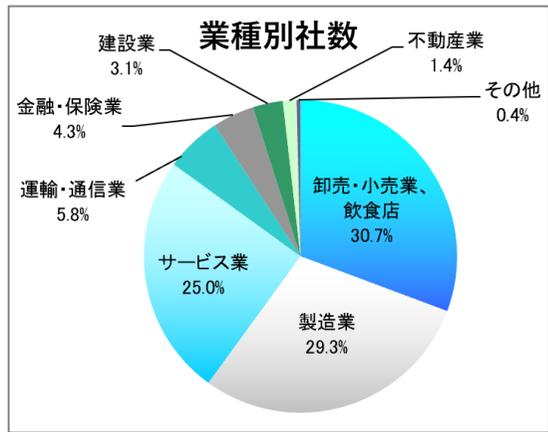
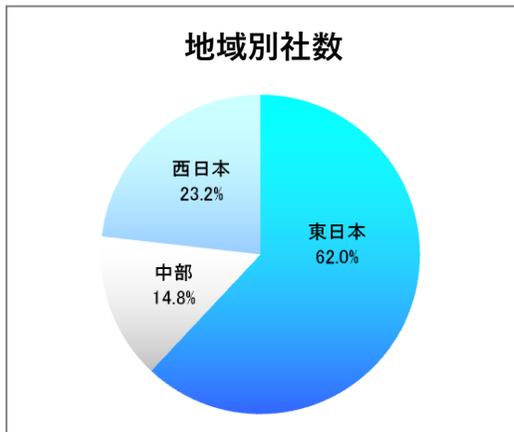
グループ経営の最適化と、イグアスのさらなる成長を考慮し、みずほキャピタルパートナーズにイグアスの株式を2017年6月末に譲渡しました。今後もイグアスの最大の取引先としてディストリビューション機能は引き続き活用していきます。

Question. 4

主なお客様の状況は？

情報ソリューション分野では、大企業から中堅企業まで、幅広くお客様を支援しています。主なお客様は中堅企業であり、経営に役立つIT活用や課題を解決するためのソリューション&サービスを提案し、全国各地からサポート&サービスを行っています。

業種では、製造業、卸売業、サービス業等、様々なお客様を支援。金融、公共、医療分野や大企業のお客様の支援も行っています。



※ J Bグループの中核事業会社であるJ B C C株式会社のお客様状況（2018年3月期）

Question. 5

協業パートナーって？

J Bグループでは日本IBMをはじめとして、パートナー各社と連携して、個々のお客様毎に最適なソリューション、最新のソリューションをご提案、ご提供しています。

ハードウェア、ソフトウェア、セキュリティ、クラウド、ヘルスケア等の各分野でリーダーシップを持つ企業が、J Bグループと連携・協業しています。

J Bグループはこれらの企業からもパートナーとして認定されており、その実績等から、毎年、多くの賞を受賞しています。

【製品】

日本アイ・ビー・エム株式会社※
リコージャパン株式会社
キャノンマーケティングジャパン株式会社
レノボ・ジャパン株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
株式会社日本HP
東芝テック株式会社
株式会社 日立製作所
EMCジャパン株式会社
ネットアップ株式会社
3D Systems Corporation
シスコシステムズ合同会社
デル株式会社
シュナイダーエレクトリック株式会社

【クラウド】

Amazon Web Services, Inc.
VEIウェア株式会社
グーグル株式会社
株式会社IJグローバルソリューションズ
株式会社セールスフォース・ドットコム
サイボウズ株式会社
GMOメイクショップ株式会社
株式会社 セゾン情報システムズ
ウイングアーク1st株式会社
株式会社インフォファーム
クリエーションライン株式会社
Tableau Japan株式会社
株式会社ソラコム

【ソフトウェア】

日本マイクロソフト株式会社※
ジェネクス・ジャパン株式会社
ソフトバンク コマース&サービス株式会社
スーパーストリーム株式会社※
株式会社OSK※

【セキュリティ】

株式会社FFRI
バラクーダネットワークスジャパン株式会社
トレンドマイクロ株式会社
株式会社シマンテック

【ヘルスケア】

亀田医療情報株式会社
株式会社ナイス

Question. 6

コンソーシアムでの活動は？

コンソーシアム（企業連合）を設立し、各分野でリーダーシップを持つ企業や業種・業務に特化したパートナー各社と連携し、お客様の成長を支援するための最適なソリューション（問題解決）を提供しています。



俺のクラウド
倶楽部

お客様に最適なクラウドサービスを提供することを目的に、業種、業務に特化したパートナー企業と連携を図り、各社の知見や技術を融合した新たなサービスを創出するため、「俺のクラウド倶楽部」を2015年に設立しました。

【主な会員】

- 株式会社OSK
- GMOメイクショップ株式会社
- GMOシステムコンサルティング株式会社
- 株式会社SCP.SOFT
- 株式会社インフォファーム
- スーパーストリーム株式会社
- ウイングアーク1st株式会社
- 株式会社セゾン情報システムズ
- 株式会社データ・アプリケーション
- 株式会社ハンモック
- Tableau Japan 株式会社
- トレンドマイクロ株式会社
- 株式会社Phone Appli
- クリエーションライン株式会社
- エスケイネット株式会社
- エウィクサー株式会社
- 株式会社エーディテクノ
- 菱洋エレクトロ株式会社
- 株式会社ファースト
- 株式会社ショーコン
- 日本デックス株式会社
- 株式会社サトー
- 株式会社セイノー情報サービス
- 株式会社ソルクシーズ
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社ソラコム



JBHC JBCC Healthcare Consortium

JBCC Healthcare Consortiumは2004年に、JBCCと医療・ヘルスケア分野に関連した優良企業が設立した企業連合です。単独企業では解決が難しい医療機関全般の課題に対し、総合力を活かした問題解決を行っています。

【主な会員】

- アイテック阪急阪神株式会社
- アライドテレシス株式会社
- 株式会社インフォニッチ
- 株式会社NHCS
- 株式会社SCP. SOFT
- 亀田医療情報株式会社
- 株式会社グリーン
- サクラシステムサービス株式会社
- 株式会社ソフィアメディカル
- 株式会社ナイス
- 日本システム開発株式会社
- 日本データカード株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社日本メディコム
- 株式会社ミロク情報サービス
- 株式会社メディアス
- メディカルシステム株式会社
- 株式会社メディカルフロント
- 株式会社メルス
- リコージャパン株式会社

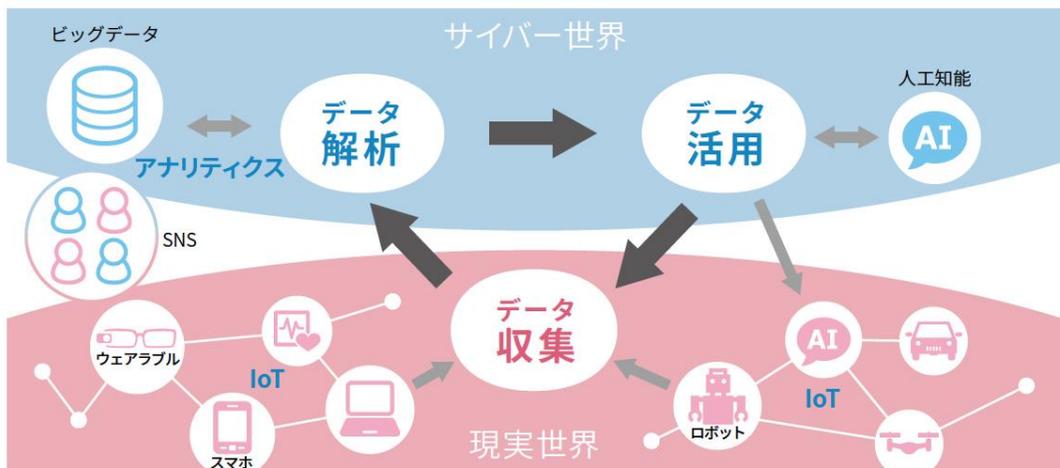
2018年8月現在

Question. 7

中期経営計画「Transform2020」とは？

J Bグループは中期的な経営計画をベースにビジネスを展開し、2016年度までの中期経営計画「Innovate2016」では、成長基盤の確立と収益の向上を推進してきました。

2017年度から2020年度までの新たな中期経営計画「Transform2020」は、「Transform - ITのチカラで、未来を変えよう。」をテーマに、最新のテクノロジーで、様々なモノ・人・機械をつなぎ、ビジネスの可能性を広げるデジタルトランスフォーメーションを推進するとともに、引き続き、収益の改善とグループ経営の最適化を図っていきます。



デジタルトランスフォーメーションとは

デジタル技術を出発点として、またはデジタル技術を駆使して、あらゆることをトランスフォーム（変化、転換）することを、一般的にデジタルトランスフォーメーションといっています。デジタル技術を前提に、既存のビジネスや組織のあり方、仕事の進め方、情報収集や学習のやり方あるいは生活のあり方を全面的に見直ししていくということです。（参考：IT Leaders CIO賢人倶楽部）

Question. 8

中期経営計画「Transform2020」のポイントは何？

中期経営計画「Transform2020」の3つのポイント、7つの分野に注力して取り組んでいきます。

Point 1

事業構造を変える

Point 2

注力分野を
明らかにする

Point 3

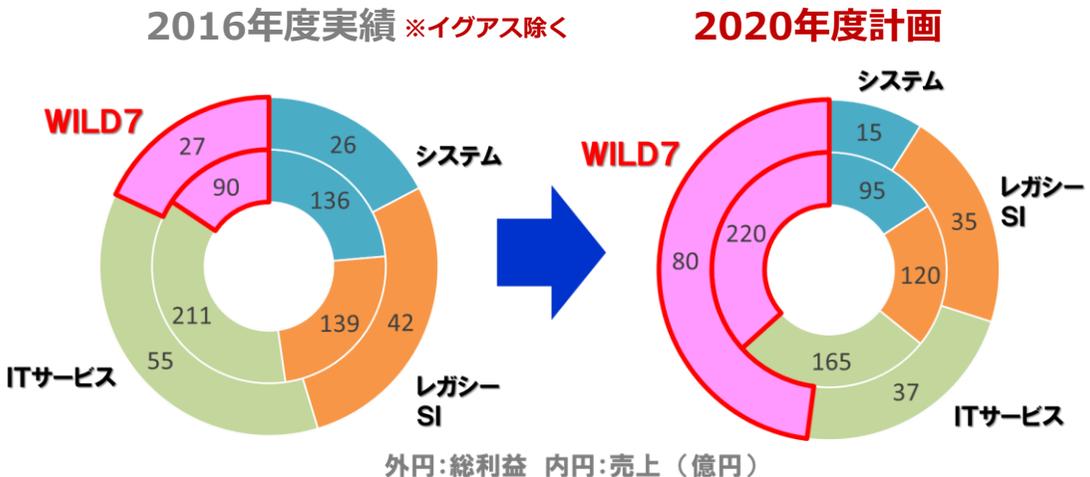
新たな取り組みを
推進する

中期経営計画での7つの注力分野 WILD7

WILD (野性的、力強い)
WILD Card (代用となる特別なカード)

- クラウド
- New SI
- セキュリティ
- ヘルスケア
- J Bソフトウェア (オリジナルソリューション)
- 3 D
- 人財育成

売上は2016年度の**2.5倍**、総利益は**3倍**を目指していきます



注力分野：クラウド

Ecoシステムで、クラウドの可能性を拡大

ビジネスのベースとなるクラウド環境を運用し、JBグループのオリジナルソリューションと、業種・業務に特化したパートナー各社のソリューションをEcoシステム(*)で連携して提供しています。

AIと連携したサービスや、クラウドを活用した働き方の提案等、企業のクラウド活用の可能性を拡げ、お客様の成長を支援します。

* Ecoシステム：企業がパートナーシップを組み、互いの技術を活かして連携。価値あるサービスを提供し、互いに発展していく仕組み。

Ecoシステム・クラウドサービス「俺のクラウド」のサービスを拡充し、累計約23,000ユーザーに活用いただいています。(2018年8月現在)



最適なシステムの提案・構築を実現

システムを細かい単位に区切って開発し、短いサイクルで動作を確認しながら進める“アジャイル開発”を推進。設計情報の管理やプログラムの自動生成を行うツール類も活用し、品質の向上とスピード開発を実現しています。

さらに、新しいテクノロジーやクラウドサービスと組み合わせ、お客様の要望に柔軟に対応できるシステム開発への取り組みを進めています。

最適な開発手法で、“やりたいこと”を素早くカタチに

新しい
テクノロジー

IoT、AI、ウェアラブル等

最適な
開発モデル

クラウドネイティブ開発
高速開発

共創

お客様と共に考え創る

上流工程ツールの利用

Xupper II

開発手法を変革

アジャイル



高速開発ツールの利用

GeneXus

「GeneXus」利用を推進

高速開発ツール「GeneXus」の開発元であるGeneXus S.A.より、日本でのGeneXusの展開、利用者拡大を評価され、表彰されています。



注力分野：セキュリティ

高度なセキュリティ対策をスペシャリストが実現

20年に渡り、お客様のIT環境を監視する運用センターSMAC(*)に、セキュリティに特化したSOC(*)機能を追加しました。日々進化するサイバー攻撃の対応や、マルウェア（被害を及ぼす悪質なソフトウェア）の分析等、セキュリティ技術を強化し、24時間365日体制で安全なIT活用を支援しています。

* 運用センターSMAC (Solution Management and Access Center)

* SOC (Security Operation Center) : セキュリティに特化した運用センター

SOC機能を強化し、お客様の要望に最適な運用サービスを提供



運用センターSMAC

東京・名古屋2箇所のSMACでは、国際規約であるISOの認証を取得しています

ITサービスマネジメント



JQA-IT0030

情報セキュリティマネジメント



JQA-IM0148

統合セキュリティブランド「OPTi Secure」

オプティセキュア

高度化・複雑化するサイバー攻撃に対し、先進のソリューションを持つパートナー企業と連携。SOCをベースに各種サービスを組み合わせて提供しています。

- ・ FFRI 「FFRI yarai」
- ・ Barracuda
「Barracuda Web Application Firewall」
「Barracuda CloudGen Firewall」
- ・ Check Point 「SandBlast Agent」
- ・ Paloalto 「Traps」
等



米NISTのセキュリティ標準をベースにした5ステップでサービスを提供しています

ITの活用で人生100年時代を支援

電子カルテ・医療会計システムを中心に、IoTやAI等の技術も取り入れ、「地域包括ケアシステム」の実現に向けたソリューションの展開を進めています。

“予防”・“医療”・“介護”の各分野をITの活用により連携させ、「ヘルスケア事業」へと、その取り組みを拡げていきます。

予防・医療・介護の各領域でIT活用による健康維持を支援



地域包括ケアシステムのイメージ

出所：とやま地域包括ケアシステム

電子カルテとAIを連携

高齢者の日々のバイタルデータ（脈拍や血圧等）をAIが管理する医療システム「安診ネット」と電子カルテを連携しました。個人の実態に合わせた管理で、健康異常を素早く察知し、医療と介護の連携を実現しています。

* 安診ネット：芙蓉開発株式会社 提供



JBHC JBCC Healthcare Consortium

JBCCヘルスケア・コンソーシアム(JBHC)：JBCCと医療・ヘルスケア分野に関連した企業が2004年に設立した企業連合。ITを活用し、医療サービスを安心して受けられる社会の実現を目指しています。

注力分野：JBソフトウェア

JBグループならではのソリューションを開発

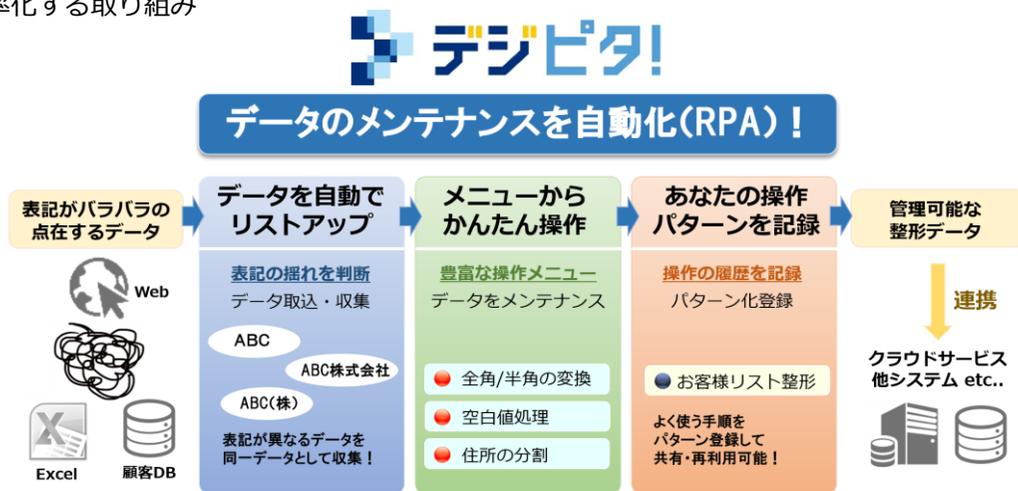
ハードウェア、ソフトウェアの開発技術を結集し、JBグループ独自のソリューションを開発・提供しています。

クラウドをベースに、IoTやAI、ロボット等の先進技術にも取り組む他、日々の業務の効率化や自動化を支援するソリューションで、ワークスタイルの変革につながる提案も行っています。

企業のデータを“ピタ！”っとメンテナンス。簡単RPAを実現

クラウドサービス「デジピタ！」は、営業活動で発生したデータの整備手順を記録して、作業の自動化を実現。外部システムと連携し、データを広く活用できます。

* RPA(Robotic Process Automation) : ロボット等の技術を活用し、定型業務を自動化・効率化する取り組み



先進技術研究所では、先進技術の研究に加え、グループ内でも技術コミュニティを立ち上げ、技術情報の発信と共有を実践。技術者間のコミュニケーションと人財の育成、技術力向上に努めています。

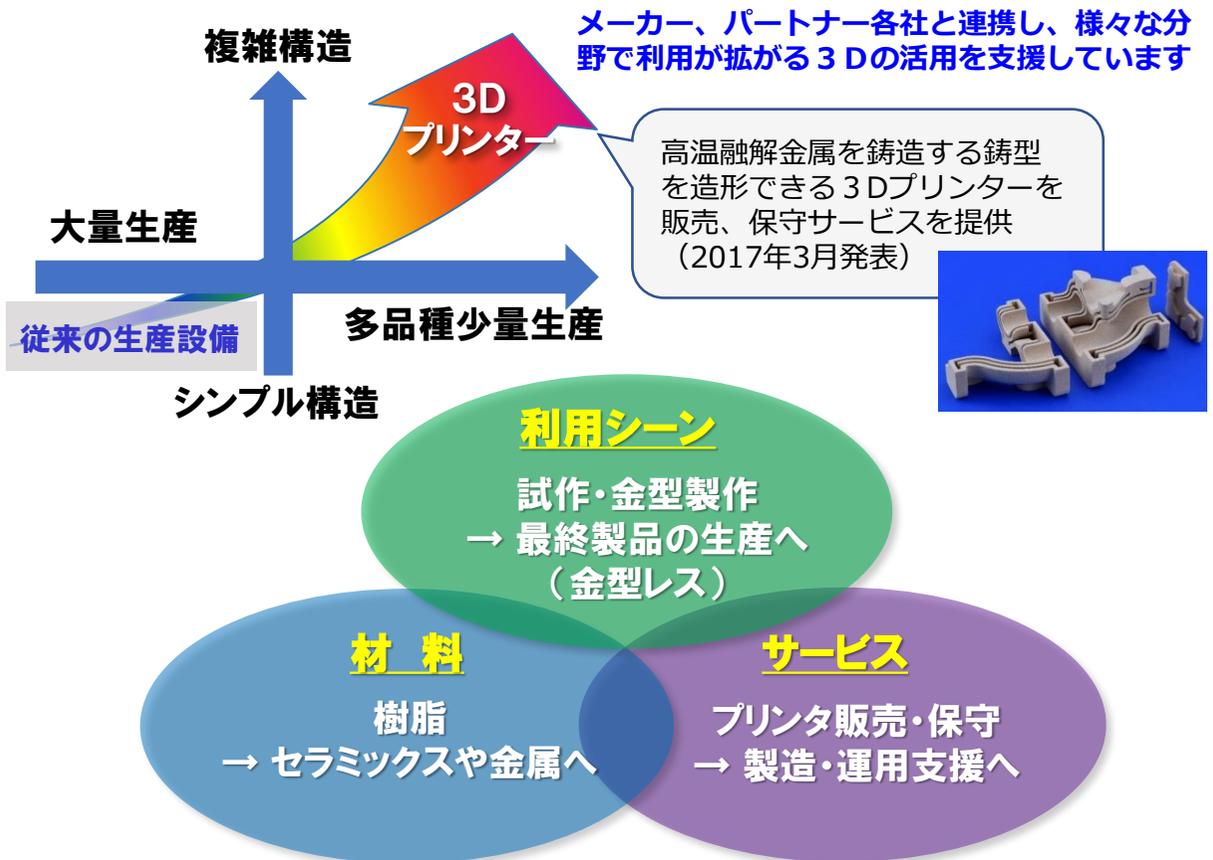


先進技術研究所の研究室「Innovation Lab」

ITと連動した3D活用をワンストップで支援

3Dプリンターは、その技術・精度の向上、利用できる造形材料の多様化（ゴム、金属、セラミック他）により、研究・開発機関での検証や試作を目的とした利用から、最終製品を生み出す生産機械へと、活用分野が広がっています。

3Dプリンターや周辺機器／関連ソフトウェアの販売のみならず、IoT技術を活用した保守・運用サービスの提供や、クラウドを活用した3Dデータ提供サービス等、新たなソリューションの創出と、3D技術者の教育・育成にも取り組んでいます。

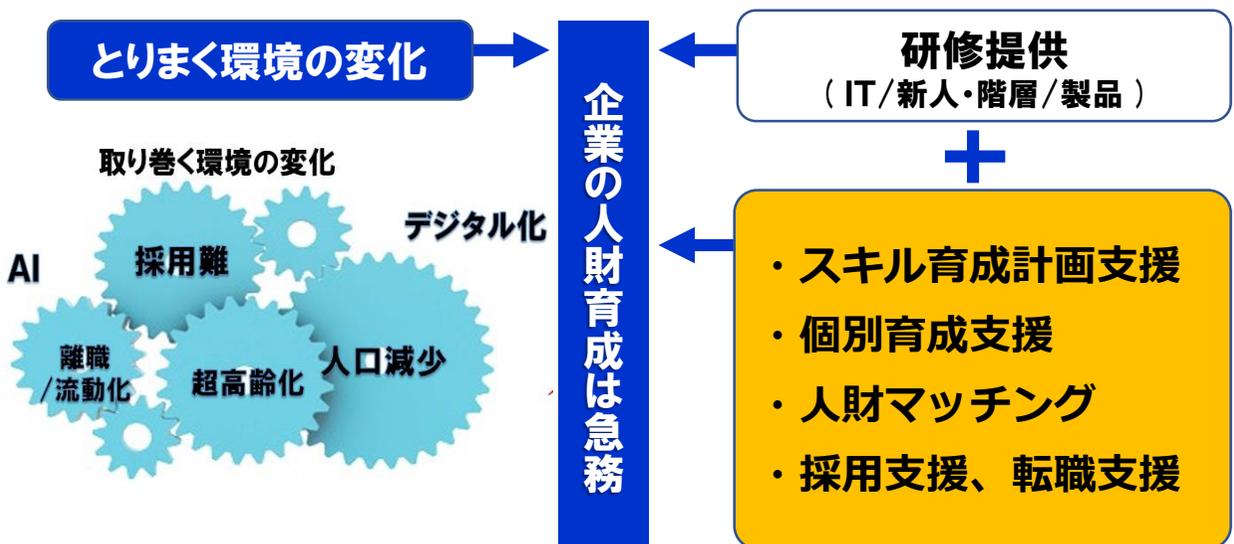


注力分野：人財育成

人財育成を総合的に推進

ビジネスのデジタル化が進む中、取り巻く環境の変化、技術の進化に対応できる人財が求められています。IT知識や製品研修、新人／階層教育の提供のみならず、企業の人財育成計画のコンサルティングやITを活用したサービス提供等、人事・人財育成の総合サービスへとシフトを進め、これらの未来を創る人財の育成に取り組んでいます。

人事・人財育成の総合サービスへシフト



社会やビジネス環境の変化に対し、自ら考え、スピーディに対応できる人材の育成を目的に、自発的な学びを支援するマイクロラーニングサイト「マイラ」を提供しています。

* マイクロラーニング：3分程度の動画など、細かく区切ったコンテンツをモバイル機器などからアクセスする学習手法。学びやすい工夫で継続した学習を支援しています。

注力分野 – トピックス –

クラウド

AIを活用したチャットボットサービス「CloudAI ライト」を提供

ソフトバンク株式会社より、AI、クラウドを活用したソリューションの開発を推進する等、2017年度のAIビジネス拡大への貢献を評価され、「Ecosystem Partner Awards 2017」にて、表彰されました。

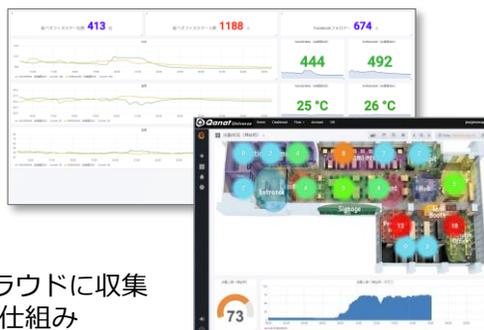
CLOUDA 



J Bソフトウェア

IoTによるデータ連携でオフィス空間を最適化（Phone Appli 様）

オフィス内にセンサーを設置。温度、湿度等の環境データや、人の位置、動きを「Qanat Universe」で見える化し、快適で働きやすいオフィス空間の実現を支援しています。



- * Qanat Universe（カナートユニバース）
IoTのデータや基幹システム等、様々なデータをクラウドに収集し、見たい形に変え、他システムへ連携・活用する仕組み

New SI

「高速開発」で基幹システムを刷新（代々木ゼミナール 様）

メインフレームの基幹系システムを、高速開発ツール「GeneXus」を活用したアジャイル開発で、クラウド環境へと移行。ハードウェアの運用コストを削減し、保守性が高く、変化に柔軟に対応可能なシステム構築を実現しました。

※ J Bグループの注力分野への取り組みは、下記サイトでご覧いただけます。

J Bグループポータルサイト：グループソリューション
<http://www.jbgroup.jp/solution/>

Question. 9

昨年のビジネス概況は？

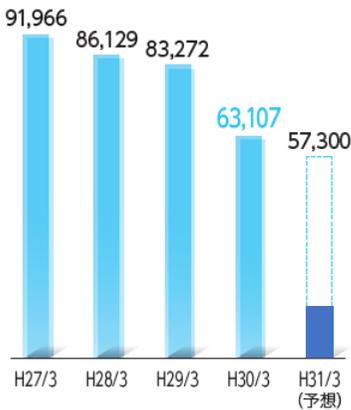
ITサービス市場は、企業の既存システム更新に加え、競争力を高めるためにIoTやAI等を活用した具体的な取り組みも進み、IT投資は着実に伸ばしています。

このような中、中期経営計画では注力分野を明確化し、お客様のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みを支援することで、更なる収益の向上を推進しました。

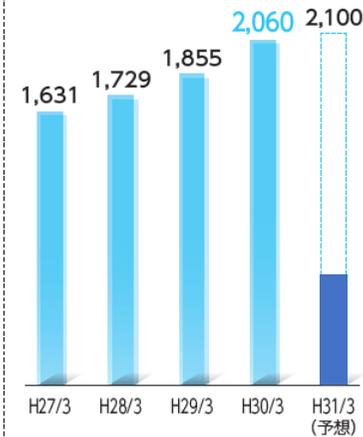
平成30年/3月期

連結売上高	連結営業利益	親会社株主に帰属する当期純利益
631億 7百万円 (前期比24.2%減)	20億 60百万円 (前期比11.1%増)	11億 86百万円 (前期比6.5%減)

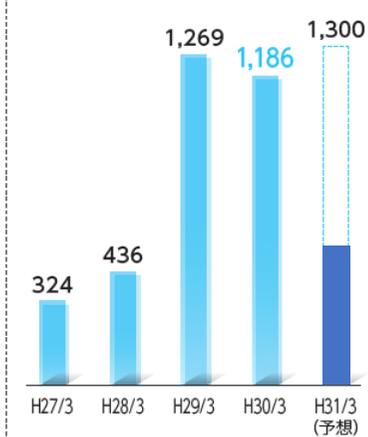
連結売上高 (百万円)



連結営業利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



24.4%

31.8%

40.9%

H31/3月期 第1四半期累計実績

連結売上高：139億61百万円 [通期予想進捗率：24.4%]

連結営業利益：6億68百万円 [通期予想進捗率：31.8%]

親会社株主に帰属する四半期純利益：5億32百万円 [通期予想進捗率：41.0%]

Question. 10

経営の指標は？

J Bグループでは、以下を経営指標としています。（単位：百万円）

	昨年度 18年/3月期 (実績)	今年度 19年/3月期 (予想)	中期経営計画 最終年度(2020年度) ↓ 21年/3月期 (予想)
売上総利益率	25.7%	27.5%	29.5%
売上高営業利益率	3.3%	3.7%	4.5%
売上高経常利益率	3.2%	3.8%	4.6%
株主資本純利益率 (ROE)	8.3%	8.7%	12.2%
純資産配当率 (DOE)	3.8%	4.0%	4.4%
1株当たり当期純利益 [円]	70.8	77.6	106.9
1株当たり純資産 [円]	887.3	897.4	878.1

Question. 11

CSRの取り組みは？

信頼される企業グループを目指し、事業を通じた活動に加え、社会参加や地域貢献、環境保全など、継続して活動しています。

■ 被災地の支援

- 鎮守の森のプロジェクト -



■ 車椅子バスケットボール大会支援



■ 緑化活動

- 富士山の森づくり -



■ 社会的に弱い立場の未就労者の就労支援

- NIPPON IT チャリティ駅伝 -



■ 環境負荷軽減に向けた活動(CO2削減)

- COOL CHOICE -



■ リサイクル活動

- アイシティecoプロジェクト -



コンタクトレンズ
空ケース
[2017年度実績]
14,000個 回収
CO2削減 89Kg

■ 次代を担う人財の育成支援

- 日経「星新一賞」 -
- BCN ITジュニア賞 -



※その他、活動実績やCSRレポートは
ホームページでご覧いただけます。
<https://www.jbcchd.co.jp/csr/>



J Bグループでは、SDGs（持続可能な開発目標）を視野に入れ、企業活動を展開しています。

* SDGs … 2015年9月、国連加盟193か国が2016年からの15年間で達成するために掲げた目標

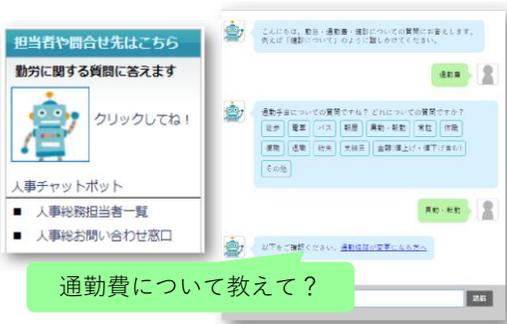
Question. 12

オフィス ショーケースの取り組みは？

お客様の経営、IT活用の課題を解決するため、オフィスを“ショーケース”として、自ら導入・展開しています。社内運用での気づきや、ノウハウを活かし、具体的な提案活動へとつなげています。

AI・チャットボットサービス

チャットボット：
チャット（会話）とボット（ロボット）
を組み合わせた言葉。AI等を活用し、
問い合わせに対応する仕組み

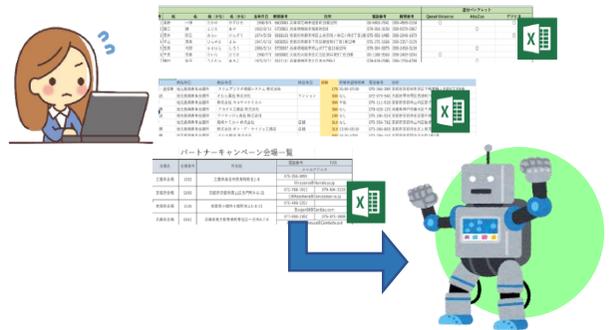


人事部門：電話対応業務を自動化

➡ 作業時間 **32%削減**

RPA

RPA (Robotic Process Automation)：
ITを活用し、定型業務を自動化・効率化
する取り組み



業務センター：Excel手入力を自動化

➡ 作業時間 **59%削減**

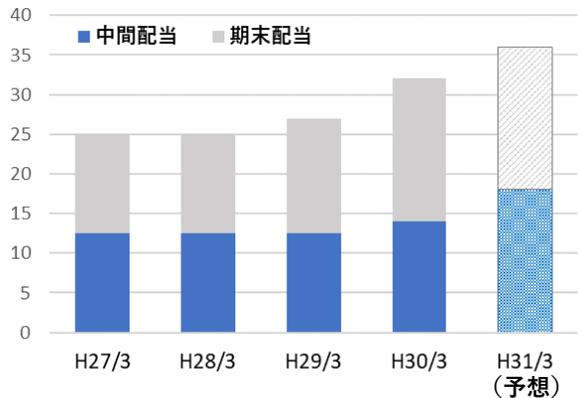
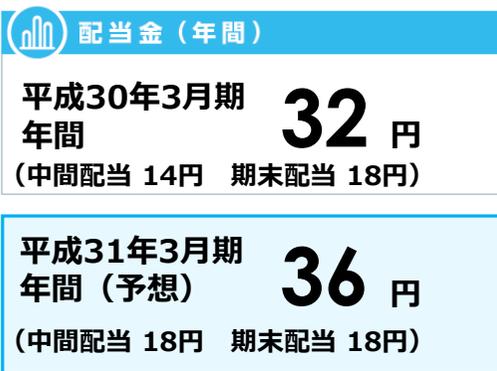
自社での導入・運用経験を活かして
具体的にお客様に提案

Question. 13

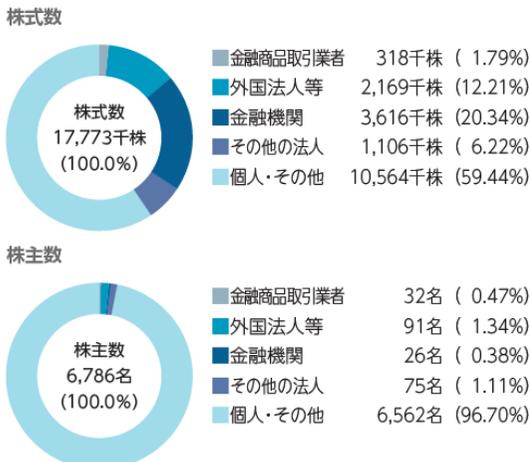
株主還元と株主構成は？

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとしています。成長に向けての将来の投資や事業展開を考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針にしています。

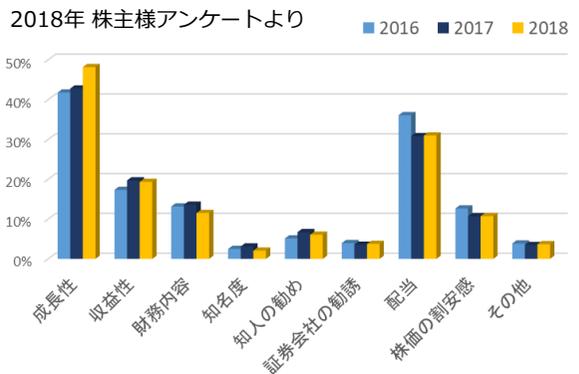
平成31年3月期は、年間36円の配当を予定しています。



■ 所有者別株式分布状況（平成30年3月31日現在）



■ 当社株式の購入ポイント



第44期（2007年度）から株主様アンケートを毎年継続して実施しています。

※ 2018年 回収率22.8%

■ 会社概要

2018年6月20日現在

社名	J B C C ホールディングス株式会社
英文名称	JBCC Holdings Inc.
URL	https://www.jbcchd.co.jp/
設立	1964年4月1日
所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア15F
資本金	4,713百万円
グループ社員数	2,119名（有期社員171名を含む） 2018年4月1日現在
事業内容	純粋持株会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 （証券コード 9889）
会計監査員	PwCあらた有限責任監査法人
拠点数	国内：52 拠点（委託事業所12拠点含む） 海外：4 拠点（中国・タイ）

■ 役員

2018年6月20日現在

代表取締役社長	山田 隆司
代表取締役	東上 征司
取締役	谷口 卓
	三星 義明
	高橋 保時
	吉松 正三
	長谷川 礼司（社外）
	井戸 潔（社外）
取締役監査等委員	赤坂 喜好（常勤）
	今村 昭文（社外）
	渡辺 善子（社外）

■ 出版書籍

経営やIT活用、文化まで、幅広い内容で出版しています。Amazonや楽天ブックスでも購入可能いただけます。



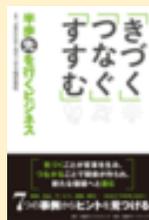
最新刊！
2018年



2017年



2016年



2015年



2014年

出版書籍
<https://www.jbcchd.co.jp/corporate/book/>



JBCCホールディングス株式会社

東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア
TEL: 03-5714-5171 URL: <https://www.jbcchd.co.jp/>

JBグループ

URL:<http://www.jbgroup.jp/>

JBCC(JBCC株式会社)	URL: http://www.jbcc.co.jp/	TEL:03-5714-5111 (代)
JBS(JBサービス株式会社)	URL: https://www.jbsvc.co.jp/	TEL:03-6380-4700 (代)
JBAT(JBアドバンスド・テクノロジー株式会社)	URL: https://www.jbat.co.jp/	TEL:044-280-8600 (代)
CIS(株式会社シーアイエス)	URL: http://www.cisjp.com/	TEL:052-261-2182 (代)
SOLNET(株式会社ソルネット)	URL: http://www.solnet-dot.com/	TEL:093-671-7827 (代)
GBS(ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社)	URL: https://www.gbs.co.jp/	TEL:03-5216-5500 (代)
i-Learning(株式会社アイ・ラーニング)	URL: http://www.i-learning.jp/	TEL:03-5623-7371 (代)
JBCN上海(佳報(上海) 情報技術有限公司)	URL: https://www.jbcchd.co.jp/jbcn/	TEL:03-5714-5171 (代)
JBTH(JBCC(Thailand) Co., Ltd.)	URL: https://www.jbcchd.co.jp/jbth/	TEL:03-5714-5171 (代)
JBPS(JBパートナーソリューション株式会社)	URL: http://www.jbps.co.jp/	TEL:03-5714-5180 (代)
C&CBS(C&Cビジネスサービス株式会社)	URL: http://www.ccbs.co.jp/	TEL:044-280-8511 (代)



Facebook



Twitter



YouTube

[お問い合わせ]

JBCCホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション 広報IR

TEL:03-5714-5171(平日 9:00~17:00) E-Mail:ir@jbcc.co.jp

本資料に記載されている将来の動向や業績等に関する見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んでおります。したがって、実際の業績は様々な要因により見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。